



ビニール
適切な温

溝ぶたで害獣対策強化

赤川市の 手軽な樹脂製人気

害獣による農作物への被害を防ぐと、コンクリート製品製造の赤城商会(赤川市吹屋)が、動物が農地に侵入する際の経路となる道路上に設置し、動物を足止めする樹脂製の溝ぶた「わたれませんLIGH T」の普及を進めている。従来の金属製よりも低コストで簡単に施工できるメリットがあり、全国の農家が積極的に導入している。



「わたれませんLIGH T」は1枚当たり幅90センチ、奥行き79センチ、重さ20キロ程度。直径8センチ、深さ12センチの六角形の穴がハチの巣状に開いており、イノシシやシカが通過しようとするとき足を取られる。ひづめが穴に落ちたり挟まったりするのを嫌う習性を利用した。

必要な枚数を平らな地面にボルトで連結させる簡単な作業で設置できる。大人2人が半日程度で取り付けられる手軽さと1枚5万2千円(応相談)という価格設定が好評で、1月末までに北海道から九州地方の農地・民間施設など37カ所に計366枚を納品した。同社は2012年から、県中部農業事務所や県鳥獣

長谷川さんが最優秀賞

J Aぐんま
女性大会

組織活動を発表

J Aぐんま女性組織協議会とJ A群馬中央会は7日、前橋市のJ Aビルで第

63回J Aぐんま女性大会を開いた。J A女性組織活動体験発表は、J A利根沼田

被害対策支援センターなどの協力を得て開発した鑄鉄製の溝ぶた「わたれません」を手掛けている。従来の溝ぶたは全国での納入実績は

道に設置できる樹脂製の商品の販売を始めた。

増えているが、公道に設置する仕様で、土木施工技術や機械が必要。そのため、生産者から自らの手で対策したいという声が寄せられていた。低コストかつ簡単施工という消費者の需要に応じる形で、19年に林道や農

福井県越前市の林道に「わたれませんLIGH T」を設置した実証実験では、20年6〜10月に計6頭のシカが確認されたが、道を越える姿は見られなかった。同社開発営業部の柳沢正和課長は「溝ぶたを置くことで、地元農家が害獣対策に向け意識を高めるきっかけにもなっている」と話す。

県内の野生鳥獣による農林業被害額(20年度)は5億6152万円と前年並みだが、捕獲総数は2万861頭と過去最高。農林水産省では昨年、対策として溝ぶたの設置・管理マニュアルを作成するなどその必要性は高まっている。柳沢課長は「被害を減らす上で、農地に接続する道路路上での対策として溝ぶたの設置は重要になっている」と話す。

必要な人に野菜を

県産の野菜の魅力を知ってもらおうと、J A全農ぐんまは1月28日、NPO法人三松会(館林市)が運営する「フードバンク北関東」に佐波伊勢崎、邑楽館林の両J A管内で収穫されたハクサイを寄贈した。

J A全農ぐんま 県産ハクサイ贈る



フードバンク北関東にハクサイを届けるJ A全農ぐんまの担当者

事業の一環として、野菜は、低コストで、フードバンクに加工用に販路、有効に活用しよう努めている。フードバンクの寄贈は今年、NPOを県内の福祉施設も食堂など

最優秀賞を獲得。長谷川さんは7月に栃木県で開かれる関東甲信越地区女性組織リーダー研修会に県代表として出場する。長谷川さんは「今、私たちにできること」をテーマに

- 崎、竹内洋輔
- 野領平、女屋
- 加、酒井麻実
- 亜美、曾田和
- 高橋晃、高山
- 巳、仲沢洋太
- 智帆、松島直
- 横沢美佳、佐
- 崎達也、小暮
- 貴、田中弘己
- 田ひとみ、吉
- き、内田実咲
- 原亮太、森田
- 平、渡辺裕太
- 旭和馬、塚越
- ▽たのぶじ
- 原圭太、小野島
- 花、佐俣舞衣
- 浦菜由、甘楽
- 乃、大河原有
- 佐藤望、竹井